

■ はいだん きょしやう
俳壇の巨匠

石井 露月

いしい ろげつ

出身地 秋田市（旧雄和町）

1873年（明治6年）～1928年（昭和3年）

まさおか しき はいく かくしん ちいき いりやう
正岡子規の俳句革新運動に共鳴。地域医療のかた
わら、島田五空らと俳誌『俳星』を発売し、秋田の
近代俳句の先駆者となる。句集『露月句集』、文集
『蝸を聴きつつ』がある。



年譜

- 1873年 秋田市（旧雄和町）に生まれる。本名・祐治。^{ゆうじ}
- 1894年 新聞「小日本」主幹・正岡子規の知遇をえる。^{まさおか しき ちぐう}
- 1896年 医師試験に合格。
- 1897年 俳誌『ホトトギス』の選者となる。^{はいし}
- 1899年 女米木村（現・秋田市雄和）に医院を開業。^{めめき}
- 1900年 島田五空、佐々木北涯らと『俳星』を刊行。^{ごくう ほくがい はいせい}
- 1908年 女米木青年団を組織し団長となる。^{めめき}
- 1916年 俳誌『瓦川』改題し『三峨』となる。^{はいし かわらかわ さんが}
- 1923年 俳誌『雲蹤』を創刊。長女追悼集『子鴉親鴉』刊行。^{うんしょう そうかん ついとう こがらすおやがらす}
- 1928年 秋田市（旧雄和町）で没。55歳。^{ぼつ さい}